〈ケア〉を考える会（第 114 回）

■日時：**2017 年 9 月 3 日（日）　13：30～17：30**

■会場：京都市山科区安朱中溝町３-２
山科駅より東 徒歩３～４分の民家
（山添）（安朱保育園 東隣）

■当日の大まかな予定
13：00　　⇒ 有志集合…会場準備等
13：30～　　⇒ 学びの会
15：30 頃～　⇒ 懇親会（笑いヨガ／音楽演奏も）
17：00～17：30　⇒ 片付け、終了
（その後で、名残惜しコーヒータイム ？ ）

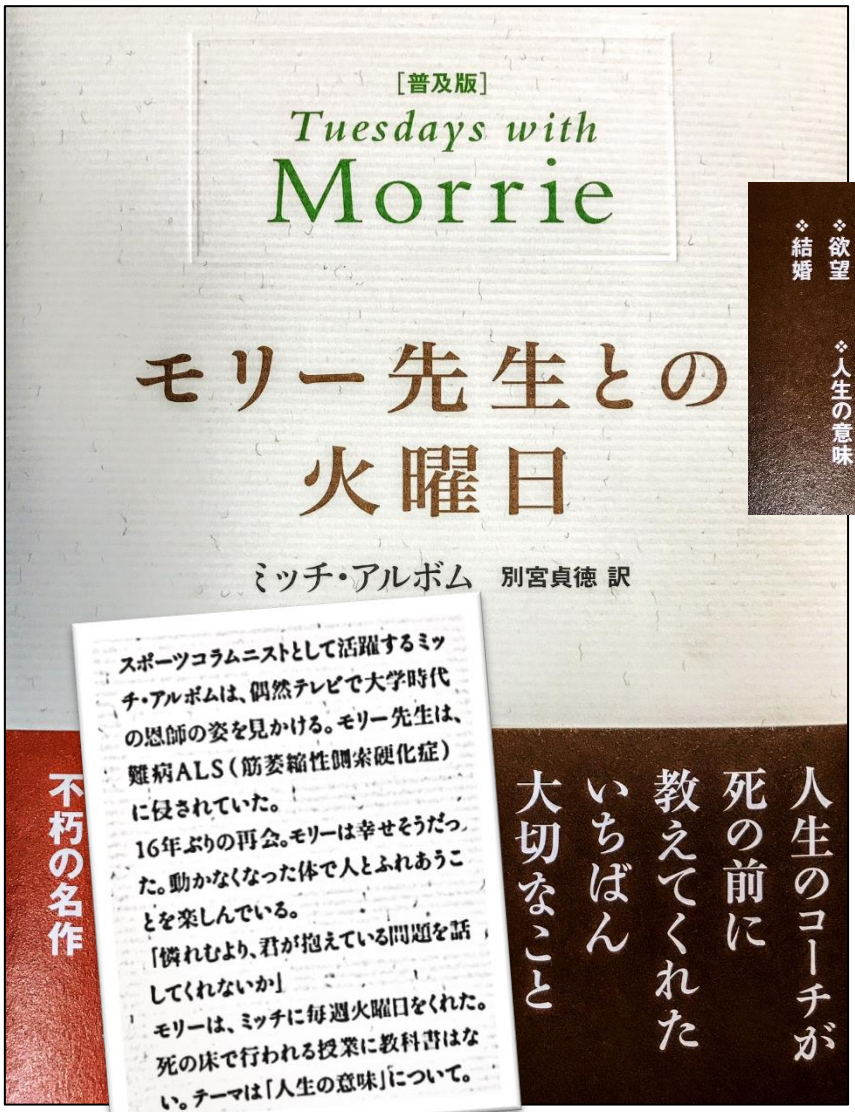
■内容

（１）読書対話‥‥次の本をもとに対話します

『モリー先生との火曜日』ミッチ・アルボム著（NHK 出版）

（２）懇親会‥‥食べながら飲みながら語り合います（持ち込み歓迎）

★懇親会参加者で実費（1000 円程度）ご負担願います
★申し込み・問い合わせ⇒ 林まで：884michiya@gmail.com　090-5366-1497
★ どなたでも参加できます（初参加歓迎）。先着 20 名程度。



モリーは、死の機関車が発車の汽笛を鳴らすのを聞いている。そして人生で何が大切かについて実に明晰な考えを持っている。ぼくはその明晰さがほしい。悩み苦しみを抱える人はみなそうだと思う。
「何でも質問して」とモリーはいつも言う。それでぼくはこんなリストをつくった。

- ❖死
- ❖家族
- ❖恐れ
- ❖社会
- ❖老い
- ❖許し
- ❖欲望
- ❖人生の意味
- ❖結婚

わたしたちはじぶんのいのちが他のいのちとの交換のなかにあることを知らされる。
（鷲田清一『老いの空白』P.227）

ひととひととの関係において重要なのは、各人が主体的にどのようにしようとしているかではなくて、いつとはなしにお互いが心を開いてしまっているという事態である。
（池上哲司『傍らにあること』P.169）

おたがいの言葉を手がかりに考える時間をもつこと、確かめながらゆっくりと考える時間を共にし、分け合う。「考え」でなく、「考え方」をお互い共有してゆく。
対話には結論はありません。
プロセスをゆたかにできなくては。
（長田弘『なつかしい時間』P.191）

「〈ケア〉を考える会」ホームページ
http://care-kyoto.jimdo.com/

「〈ケア〉を考える会-岡山」
http://okayama-care.jimdo.com/